

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-180	12-323	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Effects of acute nicotine and alcohol on the rating of attractiveness in social smokers and alcohol drinkers. 機会喫煙者および飲酒者における魅力度の評価へのニコチンとアルコールの急性効果		
執筆者		
Attwood AS, Penton-Voak IS, Goodwin C, Munafò MR.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2012 Sep 1;125(1-2):43-8. doi:		
キーワード		
機会飲酒、ニコチン、魅力度		
要旨		
目的: ニコチンとアルコールは、しばしば同時に消費される。過去の研究は両方とも社会的刺激に対する魅力の知覚をそれぞれ増加させることを示唆している。そして、それは連続使用を促進する。本研究は、ニコチンとアルコールが社会的および環境的な刺激の知覚された魅力に関しての相加作用があるかどうか調べる。		
方法: 男性および女性の (n=96) 機会飲酒者と軽い喫煙者 (1週につき14本以下のタバコ) は、ニコチン添加またはニコチン除去タバコを吸って、アルコール飲料または非アルコール飲料 (プラセボ) に無作為に割り付けられた。主要調査項目は、顔および景色による刺激の魅力評価であった。第2の調査項目は、自分の報告する気分と渴望であった。		
結果: プラセボと比較し飲酒後に、ニコチン除去タバコと比較しニコチン添加されたタバコ喫煙後に、魅力度に対して高い評価をおこない、飲物 (p=.031) の主作用とタバコ (p=.057) の主作用に向かう傾向があった。ニコチン/アルコール類で最も高度な評価で、ニコチンとアルコールは加算的に魅力の評価に作用するようであった。飲酒、喫煙と刺激の型の間に相互作用はなかった。		
結論: ニコチンとアルコール消費は同時に投与されるとすべての刺激型に対して魅力度を最も高く認知させた。この相加作用は、1つの薬の投与が他の使用を補強する、そして、習慣的消費の形成と止めた後の再発の高い可能性につながる機序である。		